

北方墓参(第1班・多楽島(フルベツ、ヒラリウス))



フルベツ墓地慰霊式にて追悼の辞を述べる芦崎団長

北方墓参では初めての2世団長となった芦崎団長率いる第1班は、7月17日に多楽島に向け出港しました。天候に恵まれ予定していたフルベツ墓地及びヒラリウス墓地において慰霊式を行うことができました。慰霊式後は、周辺を散策し居住地跡等を確認しました。

また、従来の古釜布での手続きではなく、多楽島沖で手続きが行われたため、渡航時間は2時間以上短縮され、高齢者の方々の負担が大きく軽減されました。



フルベツ墓地前での集合写真



ヒラリウス浜に向かう「えとぴりかⅡ」



ヒラリウス墓地での集合写真



ヒラリウス墓地での慰霊式の様子

北方墓参(第2班・国後島(泊、東沸))



ケラムイ浜での慰霊式にて追悼の辞を述べる村副団長



東沸沖での洋上慰霊式にて追悼の辞を述べる清水団長



解団式の様子

北方墓参第2班は、当初日程は8月8日から8月10日までの予定でしたが、台風13号の影響で10日の天候が危ぶまれたことにより日程を短縮することとしました。また、泊は外交当局間の調整がつかず、ケラムイにて慰霊式を行うこととなりました。

8日は、古釜布での手続後にケラムイ崎沖に移動し、小型交通艇「えとぴりかⅡ」にてケラムイ浜に上陸し慰霊式を行いました。翌日は天候・波の状態により東沸への上陸は叶わず、船上での洋上慰霊式を行いました。慰霊式の途中から雨が降り出さず濡れとなりましたが、その日のお昼に無事根室に戻ることができました。

北方墓参

昭和39年に人道的観点から、旅券・査証なしの身分証明書による入域という特別の方式により開始された北方墓参は、昭和43年及び昭和46年から48年までの間は、ソ連側の同意が得られず中断。昭和49年、50年は日本側の強い要請により実施されましたが、昭和51年以降はソ連が入域に際し旅券・査証を要求したため、再度の中断を余儀なくされました。その後、昭和61年1月及び5月の日ソ外相間定期協議において再開されることで合意され、同年8月、11年ぶりに歯舞群島及び色丹島での墓参を実施しました。また、平成元年には19年ぶりに国後島、平成2年からは択捉島への墓参も開始され、現在は四島すべてにおいて墓参を実施しています。

北方四島に52カ所ある墓地すべての墓地で墓参を実施し、平成31年3月末現在の延べ参加人数は4,751名(うち遺族3,644名)に達しています。

平成30年度における墓参実施状況

墓参団	実施月日	島名及び訪問地名	団員数
第1班	7月17日～7月19日	多楽島(フルベツ、ヒラリウス)	40名(うち遺族26名)
第2班	8月8日～8月9日	国後島(泊、東沸)	53名(うち遺族39名)
第3班	9月10日～9月13日 (中止)	択捉島(留別、ポンヤリ、年萌、オンネベツ)	—
計			93名(うち遺族65名)